

多くの学生が出席し、熱心に聴講した



会計学 講演会 パナマ文書を例に

国際税務の仕組み解説

専修大会計学研究所(柳裕治所長代行)の「会計学講演会」が6月30日、生田キャンパスで開催された。同研究所では会計学界における第一人者を講師に招いた学生向けの公開講演会を年2回実施。今年1回目となる今回は矢内一好中央大学商学部教授が、「企業活動の国際化と租税回避―国際税務(パナマ文書―税源浸食と利益移

転)問題について説明し、防止策としてOECD(経済協力開発機構)が公表したBEPS行動計画の内容と課題を解説した。学生、院生、教員ら約300人が、熱心に聴講した。

矢内教授は、「今後、所得の生じた国に納税するという原則を維持できるのか。EU各国は多国籍企業による租税回避を防止することを目的としたいわゆる『グーグル税』を導入している。国と企業の関係が対立するのではなく、協調に向かえるかが問われる」と問題を提起した。

海外展開へ経営戦略を

公開講座に企業経営者ら約60人



渡邊准教授の講演に耳を傾ける経営者ら

大学院商学研究科と東京信用保証協会共催の第13回公開講座「TPPが中小企業経営に与える影響」が7月30日、神田キャンパスで開催された。企業経営者ら約60人が、TPP(環太平洋パートナーシップ)協定の効果や可能性について知見を深めた。

渡邊達朗商学研究科長が「自由貿易をベースに経済が動いていくなか、経済のグローバル時代にどう対応するか考えてほしい」とあいさつ。渡邊隆彦商学研究科准教授がTPPの概要について、

TPPが中小企業経営に与える影響

既存のFTA(自由貿易協定)やEPA(経済連携協定)との共通点や相違点を踏まえ、さまざまな角度から解説した。

TPPでは関税撤廃のみならず、投資・サービス自由化、知的財産、電子商取引、国有企業など幅広い分野で新ルールを構築する。TPPやFTAで特恵関税率が適用されるためには、製品の大半の生産が協定の締約国で行われていないといけない。その規定となる「原産地規則」についても解説した。

また、今年2月に参加12カ国が署名したTPP協定だが、発効には日米の批准が必要になるとして、米大統領選の行方や日本の国会動向に注目する必要がある」と指摘。

「TPPは出発点。将来の海外展開への材料としてBEPS」をテーマにして、今春話題となった「パナマ文書」を例に、国際税務の仕組みを解説した。学生、院生、教員ら約300人が、熱心に聴講した。



パネルディスカッションでは中小企業へのメリットを考えた

て、経営戦略を考えていただきたい」と述べた。実際に日本・インドネシアEPAを活用している(株)タスコ(大阪市)常務取締役の益野禎宏さんが講演。従業員5人の同社は、2011年からEPAを利用してインドネシアに消火器や産業用ポンプを輸出している。関税率が大幅に下がり、

「現地での競争力アップ、日本側のメーカーや商社にとっても販売数量の増加が期待できる」とメリットを語った。

パネルディスカッションには小林守商学研究科

教授と中小企業基盤整備機構国際化支援アドバイザーの嶋正和氏も加わり、中小企業にとってのTPPのチャンスとリスクを探った。

小林教授はTPPに参加しているアジア諸国の一貫

生産が始まる動きがあるベトナムがホットポイントになると説明。嶋氏は「インターネットを利用すれば複数の意見を集める時代。まずは自分で情報を集めて」と経営者を激励した。

26、28日、8月2日に開催。神奈川県座間総合高等学校と高連携協定校のほ

か、今年3月、教育交流提携を結んだ埼玉県浦和学院高からも4人が初参加した。

26日は浦和学院高など3高から4人が就業体験。高校生は図書館の職員から大学図書館の役割や仕事内容について説明を受けた後、館内を見学した。

普段は入ることができない特別書庫で、フ

ス革命期の大コレクション「ミシェル・ベルンシユタイン文庫」やナボレオン時代の「エジプト誌」などの貴重書を間近に鑑賞し、感嘆の声を上げていた。

午後からは資料の受け入れ、整理、利用サービス業務や複製本を体験。利用サービス業務では、専大生を相手に、本や資料の貸し出し・返却作業などをこなした。

昨年度に続き2年連続で参加した神奈川県海老名高の2年生女子は「昨年

は利用サービス業務だったが、今年は受け入れ業務を体験した。表と裏の両面から仕事に携わることができて勉強になった」と話していた。

変わる販売、流通、広告

校友・中川氏が特別講義



流通業界の変化について語る中川氏

田口冬樹経営学部教授が担当する「流通論」の特別講義が5月25日に行われた。校友で日清食品の中川晋氏(昭44経済)が講演。学生200人を前に、加工食品業界に起きている変化と今後の展望を話した。

中川氏は「消費者にとっての『おいしい』が変わってきている。消費者の変化に合わせてメーカーも変わらなければならず、消費者との接点である流通も変化の時を迎えている」と現状を説明した後、販売、流通、広告(宣伝)の変化を伝えた。

ホールディングス代表取締役副社長・COO(6月28日株主総会で退任)の中川晋氏(昭44経済)が講演。学生200人を前に、加工食品業界に起きている変化と今後の展望を話した。

中川氏は「消費者にとっての『おいしい』が変わってきている。消費者の変化に合わせてメーカーも変わらなければならず、消費者との接点である流通も変化の時を迎えている」と現状を説明した後、販売、流通、広告(宣伝)の変化を伝えた。

例として同社のCMを上映し、「おいしいと味を表現しても効果は薄く、見た後に残る何かが必要。商品をどう表現するか、どんなイメージを伝えるかを考えて作っている」と各CM作品の制作意図を解説した。

講演では自身が携わった宇宙食ラーメンの開発秘話なども披露。

最後に流通業界について、「アマゾンをはじめとするインターネットを活用した小売りが力を付けてきたことで、流通が変わってきている。現在は各社が試行錯誤する時代になった」とまとめた。

△日時と講師 10月8日(土)生田純之文学部教授、角田洋子氏(平26院文博) / 同15日 田中禎昭文学部非常勤講師、永島朋子文学部非常勤講師 / 同29日 高久健二文学部教授、荒木敏夫文学部教授 / 会場 生田キャンパス10301教室(8月29日)、同114教室



複製本作業を体験する高校生

△日時 9月18日(日) 9時45分~15時(荒天の場合は中止あり) / 会場 川崎市多摩区総合庁舎4階第4会議室 / 内容 子育て個別心理相談 / 親子のコーラージュ体験 / お兄さん・お姉さんと遊ぶコーナー

△参加者 心理学専攻の大学院生13人と臨床心理士の教員、カウンセラーのスタッフ2人

※入場無料

△心理教育相談室 04-9900-7032

△日時 10月21日~11月4日の毎週金曜日18時30分~20時(全3回) / 会場 神田キャンパス731教室 / 講師 田中康生 / 今野裕昭(いずれも大学院文学部研究科教授) / 吉原直樹大妻女子大教授 / 東北大名教授

PART2「正念場の日本経済―日本に残された時間と選択肢―」

△日時 11月11日~12月2日の毎週金曜日18時30分~20時(全4回) / 会場 神田キャンパス731教室 / 講師 田中隆之 / 中野英夫 / 櫻井宏二郎 / 西岡幸一(いずれも大学院経済学研究科教授) / 会場 生田キャンパス10301教室(8月29日)、同114教室

公開講座情報

(16日) 定員 400人 ※往復はがき(9月1~16日必着)で申し込む。 ※入場無料

△日時 9月18日(日) 9時45分~15時(荒天の場合は中止あり) / 会場 川崎市多摩区総合庁舎4階第4会議室 / 内容 子育て個別心理相談 / 親子のコーラージュ体験 / お兄さん・お姉さんと遊ぶコーナー

△参加者 心理学専攻の大学院生13人と臨床心理士の教員、カウンセラーのスタッフ2人

※入場無料

△心理教育相談室 04-9900-7032